

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
調理学 Cooking		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	講義	選択	(栄養士資格必修)	栄養士フィールド
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
調理学実習 I				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
栄養士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
野中 春奈	福祉棟研究室	火・水・木・金曜日9:00～17:00 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
調理学は、食品を衛生上安全で消化がよくておいしい食べ物にするための基礎的な理論を学ぶ科目である。食物のおいしさは、主として色、味、口当たり、温度などに左右される。これらの要因は、調理過程で起こる食品成分の物理的・化学的・組織的变化によって生じる。そこで、食品別に調理過程における成分の変化や調理性を多面的にとらえて学習する。				
授業の目標				
①授業で得た基礎知識を理解し、調理学実習や調理現場で活用・応用することができるようにする。 ②科学的内容やデータに基づいた調理学を身につけることができるようにする。 ③各回ごとの学習内容について深く活用することができるようにする。				
授業の方法				
授業前後に実施される調理学実習 I での実践 (レポート) を反映させた講義形式				
学習の成果 (学習成果)				
①調理学の基礎知識を確認し、調理学実習や調理現場で実践・活用することができる。 ②調理学は科学的内容やデータに基づいたものであることを説明することができる。 ③各回の授業講義内容を具体的に解説することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 調理学の概要			
第2回目	調理操作と調理機器 (調理操作、加熱調理操作)			
第3回目	調理操作と調理機器 (加熱調理操作、調理機器、エネルギー源)			
第4回目	食べ物のおいしさ (おいしさとは何か、おいしさの科学、おいしさの評価)			
第5回目	植物性食品の調理機能 (穀類)			
第6回目	植物性食品の調理機能 (いも類、豆類、種実類)			

第7回目	植物性食品の調理機能（野菜類、果実類、きのこ類、海藻類）
第8回目	動物性食品の調理機能（食肉類、魚介類）
第9回目	動物性食品の調理機能（魚介類、卵類）
第10回目	動物性食品の調理機能（卵類、乳類）
第11回目	抽出食品素材（でん粉、油脂類）
第12回目	抽出食品素材（ゲル化素材、新食品素材）
第13回目	調味料、香辛料
第14回目	調理文化
第15回目	調理学のまとめ
事前・事後学習	次回授業内容のポイントを確認し、不明な点は調べておく。授業後は、その内容について簡潔なレポートにまとめる。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	15%	授業で使われる教材を準備して臨んでいる。出された課題を準備して授業に臨んでいる。授業に集中し、必要なことはきちんとノートにとっている。分かりにくい点は積極的に質問をする。
レポート	15%	課題の目的に合致し簡潔にまとめたレポートが作成でき、その内容構成がしっかりしている。(S:90-100 A:80-89 B:70-79 C:60-69 D:59-0)
調査報告書		
小テスト		
試験	70%	習得した基礎知識に対して正しく理解しているか確認する。(S:90-100 A:80-89 B:70-79 C:60-69 D:59-0)
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

「調理学」おいしく安全に調理を行うための科学の基礎（化学同人）

履修上の留意点・ルール

<p>●実務経験（職種：管理栄養士 職歴：通算15年） 「授業への参加態度」に準ずる。調理学実習と関連が深く、栄養士資格取得には必修となるので、しっかりとした目標意識をもって授業に臨むこと。飲食物の持ち込みや携帯電話の使用は禁止。</p>
